

黒い抗脈

増田常徳展

JOTOKU 2023

11/2^{THU} ⇒ 26^{SUN}

殉教の歴史に触れ

炭鉱を見つめた画家

増田常徳「抗瘴」2008年

田川市美術館

時間／9:30～17:30（最終日は16:30）※入館は閉館の30分前まで
休館日／月曜日（11月6日、13日、20日）

観覧料／一般 500円（400円） 高大生 300円（200円） 中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体および田川市在住者〔要身分証明書〕の料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介助者1名および高校生以下〔土曜日のみ〕無料



「コルセット(去勢)」2010年



「坑夫」2008年



「荷札」2019年

画家・増田常徳は、キリシタン迫害の歴史を経た長崎県五島列島に生まれました。トンネル工事現場などで働きながら独学で絵を勉強した不遇の時代を過ごし、「現代の裸婦展」で準大賞、新進作家の登竜門「昭和会展」で大賞に次ぐ林武賞を受賞、2005年には文化庁の海外研修制度でドイツへ派遣されるなど、精力的な活動を続けています。不条理を作品のテーマに、人間の暗さや闇を凝視し、暗ければ暗いほど、かえって明るさや光を求める人々の姿に真実を認め、世に問い続けています。本展では、およそ40点の作品を通じて、人物像から社会的なテーマへと至る画風の変化や、炭鉱に取材した作品群をご覧ください。時に炭鉱の負の遺産としての暗いイメージに埋もれる人々の静かな抵抗に眼差しを向け、掘り起こすべき文化的、歴史的な「鉱」脈に光をあてる増田常徳の作品をお楽しみください。



「瘡」2008年



「黒海」1998年

画家の言葉

黒い色に無数の意味を見出し、内面性や精神絵画をどこまで掘り下げて研究できるかという事を考えています。

—「佐々木豊のボンネでファイト」[第11回]独学で絵描きになる法 ゲスト=増田常徳「アート・トップ」第15号、2007年、69頁

増田常徳 (ますだ・じょうとく)

プロフィール

- 1948年 長崎県五島列島生まれ
- 1970年 上京、独学で絵を学び、数々の公募展に出品
- 1976年 第2回日仏現代美術展コンパレゾン賞
- 1980年 第3回現代の裸婦展奨励賞(82年第5回準大賞)
- 1983年 第18回昭和会展林武賞
- 1989年 安田火災美術財団奨励賞展新作優秀賞
- 2005年 文化庁新進芸術家海外研修制度(ドイツ・ミュンスター芸術大学)丸木美術館、佐喜真美術館、網走市立美術館等、全国各地で個展多数

関連イベント 増田常徳×徐京植 ギャラリートーク

日時 11/3(金・祝)13:30~15:30
 出演者 増田常徳(画家)
 *徐京植(作家)
 場所 田川市美術館 展示室内
 ※参加費無料(要観覧券)

*徐京植(ソ・キョンシク)

在日朝鮮人作家、文学者
 東京経済大学名誉教授
 1951年 京都市生まれ
 1995年 第43回日本エッセイスト・クラブ賞
 2000年 第22回マルコポーロ賞
 2012年 第6回後廣金大中学術賞
 著書に『私の西洋美術巡礼』(みすず書房、1991)などがある。



「沈殿した花石」2003年

同時開催

田川市美術館での展示の他、下記の場所においても作品をご覧ください。

暁闇の月 増田常徳展

11/2(木)~11/12(日)

10:30~17:00(入館は16:30まで)
 月曜日休館

原田脩記念 ギャラリー稲童

福岡県行橋市稲童3202 TEL 0930-24-5611

ACCESS MAP



★天神・博多方面から

【バス】
 天神高速バスターミナル
 (福岡県立大学行)〈春香町役場行〉
 石炭記念公園下車 徒歩約8分

【電車】

博多駅〈福北ゆたか線〉
 新飯塚駅〈後藤寺線〉
 田川後藤寺駅下車 タクシー約8分

★小倉方面から

【電車】
 小倉駅〈日田彦山線〉
 田川伊田駅下車 タクシー約6分